

高養研

発行 北海道高等学校養護教諭研究会
事務局 北海道札幌月寒高等学校
〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条3丁目
TEL 011-851-3113 FAX 011-851-3112
<http://koyoken.sakura.ne.jp/myks/hyousi.html>

今こそ、「養護教諭の職務の探究」を!

北海道高等学校養護教諭研究会

会長 渡 邊 祐美子

(北海道石狩翔陽高等学校長)

新型コロナウイルス感染症への対応も3年目を迎え、コロナ禍と言われる状況下においても科学的な知見を踏まえ、生徒の安全を確保しつつ教育活動を継続するという新たな展開となりました。

そのような中、養護教諭には日々変化する情報を的確に捉えるとともに、保健室の機能を最大限に生かし、生徒の心身の健康観察をはじめとした保健管理、感染防止対策、さらには感染予防のための健康教育の推進など、その職務の適確な推進がより一層求められているところです。

養護教諭は学校において唯一、医学的知識や看護の素養を有し、「養護をつかさどる」教育職員として、多様化する児童生徒の健康課題への対応に当たっています。一方で、多くの学校には一人しか配置されておらず、初任者でたとえ知識や技術が未熟であっても、職務上の責任においてベテラン同様の対応が求められます。

高養研は昭和61年の設立以降、「高等学校に勤務する養護教諭としての特性、専門的知識並びに技能の向上を図り、もって学校保健の発展に寄与すること」を目的として活動して参りました。このような時代であるからこそ、養護教諭としての専門性を高め、児童生徒の生涯にわたる健康づくりに邁進するためにも、可能な限りの安全策を講じながら直に集い、また、オンラインの活用も図りながら、互いの実践から学び合う「高養研」を、会員の皆様とともに展開して行きたいと思っております。

さて、今年度の入学生から、「社会に開かれた教育課程」を理念とする新学習指導要領がスタートします。グローバル化し、AI（人工知能）化していく社会の中で、主体的に問題発見・解決し協働しながら新しいものを創造していく資質・能力を全ての生徒に育み、生涯にわたって探究を深め、未来の創り手として送り出していくことを目標としており、その目玉の一つは各科目に設置された「探究」です。探究学習とは、教科の垣根を越えて、生徒自身が自分らしさや将来の生き方について、自らテーマや課題を設定し、その目標に対して、他者と共に、試行錯誤しながら、能力や知識を養っていく学習です。

高等学校に勤務する養護教諭の皆様には、今こそ「養護教諭の職務の探究」に努められ、自身の資質向上はもとより、生徒の健康課題の解決、さらには生涯にわたって心身ともに健康に生き抜くための資質・能力の育成に向けた取組を一層充実させていただきますよう期待しております。

今年度も高養研に対する皆様の御理解と御支援をよろしくお願い申し上げます。

北海道高等学校養護教諭研究会第37回研究協議会のご案内

【開催日】 令和4年7月27日(水)・28日(木)

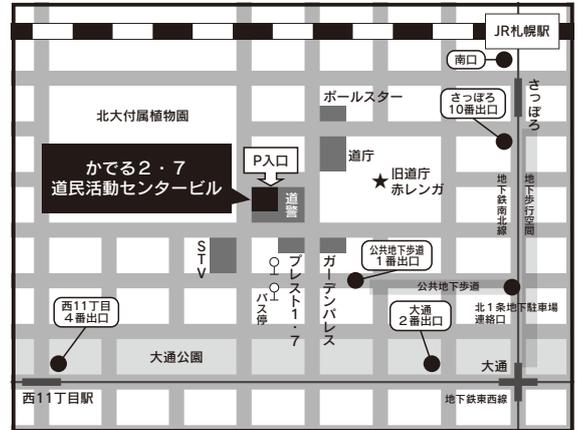
【日時】

7/27 (水)	12:30	13:00	13:20	15:20	15:45	7/28 (木)	9:15	9:30	9:50	11:10	12:00	13:20	15:20
	受付	開会式	講演1	地区幹事会			受付	総会	研究発表	情報提供	昼食	講演2	閉会式

【場所】 かでる2・7 (北海道立道民活動センター)
札幌市中央区北2条西7丁目 TEL 011-204-5100

【アクセス】

- JR札幌駅南口：徒歩13分
 - 地下鉄 さっぽろ駅 (10番出口)：徒歩9分
大通駅 (2番出口)：徒歩11分
西11丁目駅 (4番出口)：徒歩11分
 - 公共地下歩道 (地下歩行空間から北1条地下駐車場連絡口をお通りください) 1番出口：徒歩4分
- ※車でのご来場はご遠慮ください。



【昼食】 研修室で食事をする場合は、黙食をお願いします。

【参加対象】 北海道高等学校養護教諭研究会会員

※会場の収容人数の都合上、事前に申し込まれた会員のみ参加となります。

新型コロナウイルス 感染症感染拡大防止対策

- ・体調不良の方は参加をお控えください。
 - ・マスクの着用、こまめな手洗い・手指消毒、飲食中の会話は控える等感染症対策をお願いいたします。
- ※感染状況によっては、オンライン開催になる可能性もあります。

講演1

演題 「学校における自死予防対策について」

講師 札幌学院大学心理学部 教授、心理臨床センター長

齊藤 美香 氏

〔講演要旨〕

我が国の自殺者数は、1998年以降、3万人を超える状態が続いていたが、2012年より減少している。しかし、児童生徒に関しては減少せず、2017年に閣議決定された「自殺総合対策大綱～誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指して～」では、子どもおよび若年者への自殺対策が重点化され、SOSの出し方教育などが推進され、SNS相談などの拡充といった若年者がアクセスしやすい事業も進められてきた。一方で、増加傾向には歯止めがかからず、コロナ禍の2021年度は前年の399名から499名に大きく増加した。児童生徒の自死の背景には学校問題、家庭問題、健康問題等、複雑な要因が絡んでいるだけに難しい課題がある。また、子どもにSOSを出させるだけでは不十分で、SOSを出せるような周りの環境、関係づくりといった私達大人の役割が重要といえる。本発表では、若年者の自死についての現状、学校における自死予防対策について、参加者とともに考えたい。

〔プロフィール〕

【略歴】 資格：臨床心理士・公認心理師

1991年上智大学大学院文学研究科教育学専攻心理コース博士後期課程満期退学。精神科領域での勤務を経て、2003年～2010年北翔大学学生相談室、2006年より北海道大学保健管理センターにてカウンセラーとして勤務。2010年～2017年北海道大学保健センター専任講師。大学生・保護者及び教職員のメンタルヘルス業務や障害をもった学生への支援に携わる。2017年より札幌学院大学人文学部臨床心理学科准教授。2020年4月より現職。日本学生相談学会常任理事。専門は学生相談、障害学生支援、青年期のメンタルヘルス、精神分析。

主な論文：齊藤美香他 (2015) 大学生への自死予防教育に関する一考察、北翔大学北方圏学術情報センター年報 7 135-140、齊藤美香他 (2019) 援助要請行動に影響を与える個人要因—大学生へのメンタルヘルス教育プログラム受講前後比較—、札幌学院大学心理学紀要 1 (2) 1-12など。



講演2**演題 「ケーススタディーで学ぶ重症と軽症の見極め方」**

講師 医療法人大植会 葛城病院 救急科 部長
元・和歌山県立医科大学 救急集中治療医学講座 講師
那須 亨 氏

〔講演要旨〕

このたびは北海道高等学校養護教諭研究会第37回研究協議会にお招きいただき本当にありがとうございます。明日からそれぞれの学校現場で実践していただける「救急車を呼ぶべきかの見極め方」と「フィジカルアセスメントの方法」についてお伝えします。具体的には、実際の症例に対する対応をいっしょに考えながら、特に重症な場合に救急車を呼ぶべきかどうかの見極め方について解説します。一方で軽症な場合でもこのまま様子を見るべきか、あるいは病院に連れていくべきかと悩むことが多いと思います。フィジカルアセスメントを用いた、重症と軽症の判断の方法についてもいっしょに学びたいと思います。

約2時間の研修が終わった時には、自信を持ってこれらの判断ができるようになっているはずです。どうぞご期待ください。



〔プロフィール〕

平成13(2001)年 和歌山県立医科大学 医学部 卒業
平成21(2009)年 和歌山県立医科大学 外科学第二講座 学内助教
平成27(2015)年 和歌山県立医科大学 救急集中治療医学講座 助教
(附属病院 高度救命救急センター 兼務)
令和4(2022)年 和歌山県立医科大学 救急集中治療医学講座 講師
令和4(2022)年 医療法人大植会 葛城病院 救急科 部長

【専門・研究分野】

救急・集中治療、外傷、内視鏡外科、ドクターヘリ搬送、災害医療、養護教諭卒後教育

【資格】

◎医師・医学博士 ◎日本DMATインストラクター(厚生労働省)
◎臨床研修指導医(厚生労働省) ◎産業医 など

【所属学会】

◎日本救急医学会 救急科専門医 ◎日本外科学会 指導医・専門医
◎社会医学系専門医協会 指導医・専門医 ◎日本内視鏡外科学会 技術認定医
◎日本腹部救急医学会 教育医・認定医・評議員 ◎日本 Acute Care Surgery 学会 認定外科医・評議員
◎日本航空医療学会 ドクターヘリ認定指導者 ◎日本災害医学会 ロジスティクス専門家 など

【論文/著書/DVD】

Prediction of early acute kidney injury after trauma using prehospital systolic blood pressure and lactate levels: A prospective validation study. Injury 53: 81-85, 2022
Prehospital blood pressure and lactate are early predictors of acute kidney injury after trauma. J Surg Res 265:180-186, 2021
窒息への対応と心肺蘇生(AED). 教育と医学 65:592-596, 慶應大学出版, 2017
教育現場でできる感染症予防DVD. ジャパンライム(株), 2020 など

研究発表**「養護教諭から繋げる学校保健」**

北海道帯広三条高等学校 養護教諭 **中山 知美 氏**

〔研究発表要旨〕

学校で1人の養護教諭は、1人ではできないことをたくさん抱えながら、それでも1人で頑張るしかない状況に置かれることが多いと思います。教職員の理解と協力を得て、組織として活動していきたいと願って取り組んできた前任校での実践をまとめました。

助言・ 情報提供

「学校保健の課題とその対応」

北海道教育庁学校教育局

健康・体育課健康・体育指導係 主査 篠原 弥智氏

研修報告

◎全国養護教諭連絡協議会「理事会」参加報告

北海道札幌稲雲高等学校 養護教諭 堀川 智恵

全養連は「北海道・東北」「関東」「中部」「近畿」「中国・四国・九州」の5つのブロックに分かれ、理事会はブロックから代表者1名が参加し、報告や協議、情報交換を行っています。令和4、5年度は北海道がブロック代表のため、令和4年1月15日(土)に理事会に参加しました。当初は東京会場で開催予定でしたが、コロナ感染者増加のため、急遽、会場とZoomでのハイブリット開催となり、私はZoomで参加しました。

来年度の予定、調査研究委員会等各係からの報告の他、情報交換も行われました。

情報交換は「①WEB等での研修会開催における利点や課題 (ICT環境・勤務態様)」「②コロナ禍での学校保健活動の効果や課題」についてです。①では、利点は時間と費用の節約、コロナ感染や交通事故等が避けられる安全面。課題は、養護教諭同士の交流ができない、勤務時間内での時間と場所の確保が困難等の意見が多くありました。保健室にPCやプリンターの無い学校もありICT環境の格差も出されました。②では、効果は学校保健全般に対する児童生徒、教職員、保護者の意識の向上。ICTを活用した保健指導実施でバリエーションが増えた等。課題は、常時マスク生活や活動の制限により、体力低下、ケガの増加、心に不調を抱える子ども達の増加。養護教諭の負担が増え、心の不調から病休や離職にも繋がっているという心配な報告もありました。

長期化している新型コロナウイルス感染症への対応等、様々な現状が全国の各ブロックから出され、有意義な意見交換を行うことができました。

◎全国養護教諭連絡協議会 第27回研究協議会 参加報告

北海道札幌北高等学校 養護教諭 滝川 智子

3月10日(木)～4月17日(日)に動画配信された全国養護教諭連絡協議会 第27回研究協議会を視聴しました。「時代の変化に対応した養護教諭の役割を追究する～新しい時代の保健室経営のあり方とは～」を主題として、フリーランス医師境野高資氏による特別講演、文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課 健康教育調査官 松崎美枝氏による基調講演がありました。また、フォーラムでは「連携・協働の深化により健康課題解決を目指した保健室経営のあり方を通して」について、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の4名の養護教諭の先生方から、子どもたちの健康課題の解決を目指して取り組まれた実践について発表していただきました。

養護教諭の役割を再確認することができたと同時に、チームにおける学校の中で自分は養護教諭としてどのような役割を果たしているか、保健室経営計画は自校の健康課題を踏まえた内容であるか、教職員や関係機関と連携・協働した取組となっているかなど自校の取組内容を見直す機会となりました。

オンライン開催が増えたことにより、移動が必要な場所で開催される研修会にも気軽に参加できるようになりましたが、顔を合わせて情報交流ができなくなったのは残念です。このような状況下ではありますが、養護教諭同士のつながりも大切にしながら、今後も専門性の向上と発展に努めたいと思います。

事務局連絡

令和4年度北海道高等学校養護教諭研究会 役員名簿

会 長	渡邊祐美子	北海道石狩翔陽高等学校	事務局員	加賀 陽子	北海道恵庭南高等学校
副 会 長	堀川 智恵	北海道札幌稲雲高等学校	事務局員	登 祐希	北海道札幌丘珠高等学校
事務局 長	岡 香	北海道札幌月寒高等学校	事務局員	滝川 智子	北海道札幌北高等学校
会 計	菅原麻里子	北海道北広島高等学校			
事務局 員	山崎 由理	北海道石狩翔陽高等学校	顧 問	原田 稔朗	北海道石狩南高等学校

令和4年度北海道高等学校養護教諭研究会 地区幹事名簿

石 狩	山田 美香	北海道石狩南高等学校	宗 谷	山本ゆりか	北海道礼文高等学校
道 南	島 香織	北海道函館工業高等学校	オホーツク	石川かおり	北海道遠軽高等学校
後 志	伊藤 智子	北海道寿都高等学校	釧 路	鈴木 祥子	北海道釧路湖陵高等学校
空 知	宮腰 里佳	北海道岩見沢西高等学校	日 胆	藤田 千秋	北海道苫小牧南高等学校
上 川	上野 美冬	北海道旭川永嶺高等学校	根 室	甲斐 晟歌	北海道根室高等学校
留 萌	角野 千尋	北海道天塩高等学校	十 勝	中山 知美	北海道帯広三条高等学校

WEBページをご利用ください。

入会・参加申込書はこちらからダウンロードできます。また、研究会の様子などを掲載しておりますので、どうぞご覧ください。

【アドレス】 <http://koyoken.sakura.ne.jp/myks/hyousi.html>
北海道教育委員会、北海道高等学校教育研究会、全国養護教諭連絡協議会、文部科学省、日本学校保健会のホームページへもリンクできます。



高養研・高教研養護部会の会員になりませんか？

学級数の減少に伴い、会員も減少しています。会の存続と活性化のために、会員を募集しています。よろしく願いいたします。